

### アジアオープンデータハッカソン2017開催報告 —日本のテーマは気象データの有効活用—

株式会社三菱総合研究所 社会ICTイノベーション本部  
主席研究員

村上 文洋

#### 1 | アジアオープンデータハッカソン 2017

2017年9月15日（金）、アジアオープンデータハッカソン2017の表彰式が台湾・台北市で行われた。アジアオープンデータハッカソンは、2015年から台湾が中心となって取組んできたイベントで、2017年5月11日（木）に、台湾のOpen Data Allianceと、日本の一般社団法人オープン&ビッグデータ活用・地方創生推進機構（VLED）の間で、オープンデータに関する相互協力の覚書が締結されたのをきっかけに、日本も参加することになった。日本、台湾以外には、韓国、タイが参加した。

7月22（土）の国際インプットセミナーから始まり、8月5日（土）、6日（日）には丸2日かけてハッカソンを行い、8月19日（土）にはデモデイが行われた（表1）。国際インプットセミナーでは、参加4カ国の会場をネットで結んで、各国のテーマや提供するオープンデータなどが紹介された。日本のテーマは「気象データの有効活用」。2017年3月に気象ビジネス推進コンソーシアムが立ち上がったこ

とや、気象データを活用した防災・災害対応などは参加各国の共通課題であることなどから、このテーマが選ばれた。その他は、台湾が「食の安全」、韓国が「政府の透明性」、タイが「社会経済格差」である。

日本側のイベントの主催は、前述のVLEDとOpen Knowledge Japan（OKJP）。データ提供には気象庁の協力も得た。運営は株式会社HackCampに委託した。

日本では、東京、大阪、富山の3会場でハッカソンが行われ、全部で約90名が参加した（図1）。最年少は富山会場の小学3年生。計19作品が開発され、この中から主催者と事務局で5作品を選定した。

選定された5作品は、デモデイに向けてさらにアプリをブラッシュアップするとともに、英語のプレゼン資料の作成やスピーチの練習などを行った。

デモデイは各国で予選を通過した5チーム（計20チーム）が、それぞれ5分でプレゼン。各国3名（計12名）の審査員が審査し、各国上位2チームを選定した（表2）。

開催日	イベント内容	開催場所（日本）
2017年7月22日（土）	国際インプットセミナー	SENQ霞ヶ関（東京会場） ※4カ国をネットでつないで開催 ※大阪会場、富山会場にも中継
2017年8月5日（土）・ 8月6日（日）	ハッカソン	Samurai Startup Island（東京会場） アベノハルカス（大阪会場） 真成寺会館（富山会場）
2017年8月19日（土）	デモデイ	SENQ霞ヶ関（東京会場） ※4カ国をネットでつないで開催

（出典）著者作成

表1 アジアオープンデータハッカソンの開催概要



(出典) HackCamp 撮影

図1 ハッカソンの様子 (東京会場)

作品名	チーム名	参加会場	概要	受賞
STANDY	STANDY	東京	人工知能のディープラーニングによって気象データだけでなく、想定ユーザーである子供1人1人の感情まで予測。遊ぶ場所の提案や友達作りのきっかけを提供するアプリ。	最優秀賞 AITalk特別賞
Always Sunny	Always Sunny	東京	目的地までの経路の気象情報を地図情報と連動。これまでの移動に適した道路情報だけではなく、経由地の天気情報も組み合わせた最適な経路選択を可能に。	優秀賞 国際オープンデータ賞
そらつり	うーみん	大阪	空を海に見立てて「上を向いて」釣りを体験する、AR技術と気象の独自パラメータを用いて提供するアプリ。	Team's choice賞
Noah	Noah	富山	時計で時刻を確認するような手軽さで、予め登録した河川の最新の水位を可視化できるアプリ。	
Weather filter	自宅警備員biz.	東京	気象データをライブラリでフィルタリングできる仕組み。汎用性が高く、様々な形式のデータを手軽に入手・提供することができる。	

(出典) 著者作成

表2 日本で開発された作品 (計19) のうち予選を通過した5作品と受賞結果

## 2 | 優秀チームの作品

最優秀賞(日本の1位)を受賞したのは「STANDY」(図2)。天候などで子供の機嫌が変わることを独自の数式で「uzu uzu 指数」として定量化し、ディープラーニングなども駆使して、遊び場の提案や友達作りのきっかけを提供するというユニークなアプリ。独自にデザインした熊のキャラクターのかわいらしさや、ハッカソンのスポンサーの一社である株式会社エーアイの音声合成ソフト「AITalk」を使った楽しい会話、そして完成度の高さなどから高い評価を得た。

優秀賞(日本の2位)を受賞した「Always Sunny」は、通常の経路検索に気象データを組合せたアプリ。ドライブする際に経路上の天候を確認したり、複数のルートがあるときは天候のよいほう

を選択したりできるなど、利便性とわかりやすさが高く評価された。

最優秀賞と優秀賞の2チームが、9月15日(金)の台湾での表彰式に招待された。

惜しくも上位2チームからは漏れたが、参加チームの相互投票で「Team's choice賞」に輝いたのが「そらつり」。大阪会場がアベノハルカスだったことから、超高層ビルの特徴を活かしてARを使った魚釣りのゲームアプリを開発した。高度(気圧)を水深(水圧)に見立て、高い位置ほど深海魚が釣れたり、その日の気圧によって魚が出てくる高さが変わったりするユニークな作品。お魚大好きというリーダーの女子大生の思いが形になった。

その他の作品も、惜しくも選には漏れたが、どれもユニークな作品ばかりで、質の高さを感じるハッカソンだった。



(出典) チーム「STANDY」

図2 最優秀賞に選ばれた「STANDY」

### 3 | 国際色豊かなハッカソン

海外と共同で行うハッカソンの企画・運営に携わるのは初めての経験で、株式会社HackCampの支援なしでは成功しなかったと思う。また、各国それぞれ文化や習慣が異なり、しかもオンラインでのコミュニケーションが主体であったことから、物事がなかなか決まらなかったり、一度決まったことがすぐに変更されるなど、準備段階では（特にHackCampの担当の青木さんの）苦労も多かった。一方、各国の課題に対する真摯な取組み姿勢や熱意などを感じられた。特に台湾は、最初から海外での利用も視野に入れた作品が多く、まず国内で成功して、その後海外へという考え方が主流の日本との違いを感じた。また、今回、最優秀賞、優秀賞を受賞した2チームは、マレーシア、インド、ロシアなど海外メンバーも参加した国際色豊かなチームで、開発のコミュニケーションも英語で行っていた。日本でも今後はこのような風景が当たり前になるように思う。

### 4 | 「気象データアナリスト」の育成

今回のハッカソンには、実はもうひとつ狙いがあった。それは気象予報士の参加である。

国際インプットセミナーには、気象予報士の三浦まゆみさんが登壇し、気象データの活用方法などを解説した。三浦さんはデモデいの審査員も努めた。また、ハッカソンには、三浦さんを含めて計4名の気象予報士が参加し、開発チームに対して気象の専門家の見地からアドバイスを行った。これにより、各開発チームは様々な気象データの活用可能性を検討でき、一方、気象予報士の方々も、これまでとはまったく違う気象データの活用方法が次々と出てくるのを見て、すごく刺激になったという。

今後、行政、企業、地域など様々な主体が、もっと気象データを有効活用するためには、これらの主

体と気象データをつなぐ人材の育成が不可欠である。今回のようなイベントを通して、気象データの新たな可能性を発見し、企業や開発者などと接点を持つことで、気象予報士の中から「気象データアナリスト」が次々と生まれることを期待したい。